日本財団助成プログラム：支援体制の整備と災害想定訓練　2026年度

特定非営利活動法人　とっとり災害支援連絡協議会

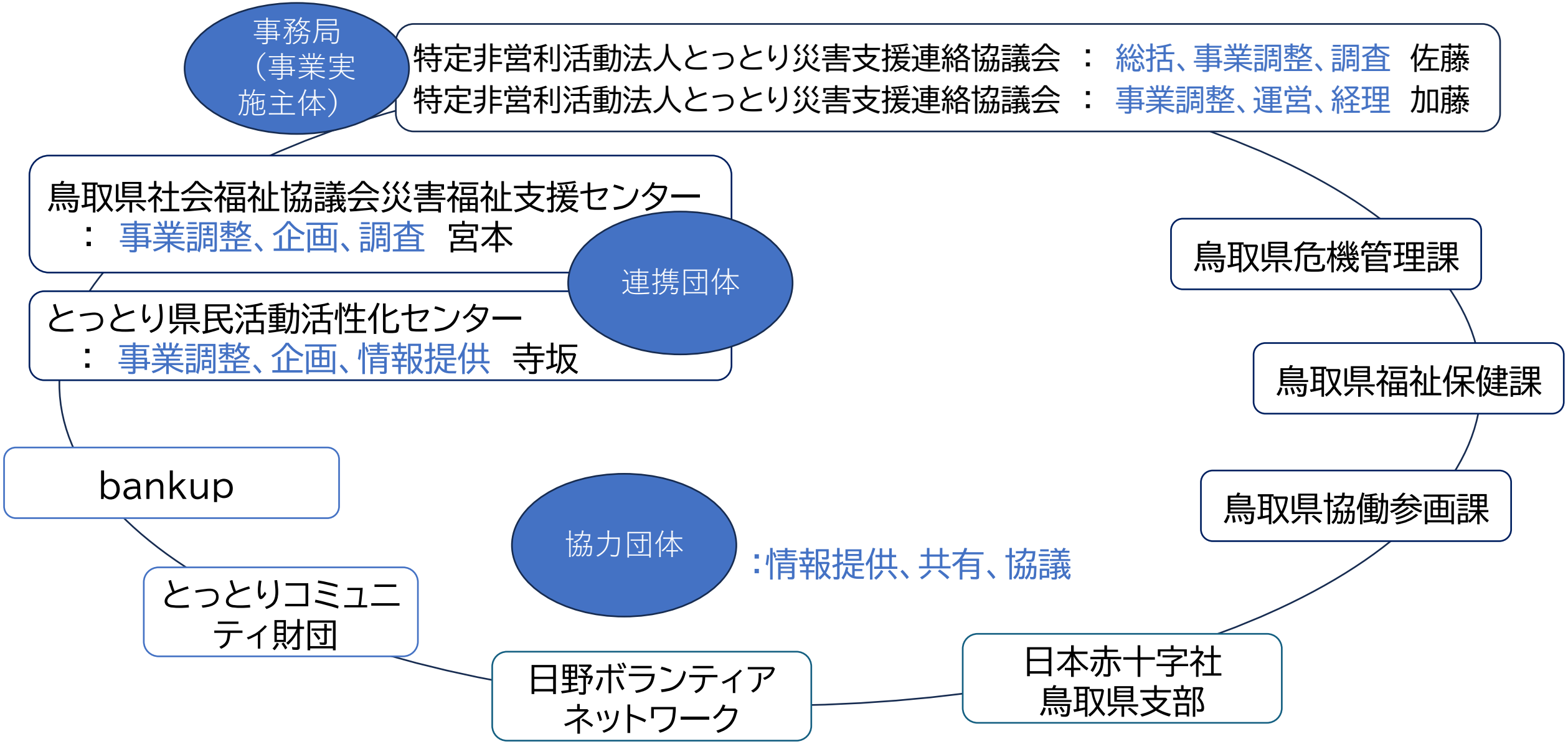
【中長期アウトカム】

鳥取県内災害支援活動のネットワークを構築し、得意分野、専門分野のスキルを活かした研修の実施と訓練シナリオを作成し、地域社会への周知と、訓練参加の拡大を図り、PDCAサイクルを重ねることによって、発災時には素早い対応ができる。
目的：鳥取県内における15分野との連携が図れ、各分野の戦略的な個別研修の推進、および多分野合同の被災想定訓練の定着により、各分野の専門支援者と行政が連携した被災者支援体制が鳥取県に構築される。被災者を取りこぼさない、災害関連死を未然に防ぐ支援につなげられる平素の取り組みができる社会となる。

【最終目的】

鳥取県内における15分野との連携が図れ、各分野の戦略的な個別研修の推進、および多分野合同の被災想定訓練の定着により、各分野の専門支援者と行政が連携した被災者支援体制が鳥取県に構築される。被災者を取りこぼさない、災害関連死を未然に防ぐ支援につなげられる平素の取り組みができる社会となる。

日本財団プログラム実施体制図



全 国

イメージ図：災害時の相互支援ネットワーク

（県 内）



日本財団助成プログラム：支援体制の整備と災害想定訓練の実施事業【2026.7.1から2027.3.31】

事業名	項目		２６’７	２６’８	２６’９	２６’１０	２６’１１	２６’１２	２７’１	２７’２	２７’３
情報交換会											
①支援体制の整備	a)被災者支援に関する研修の実施 ex.子育て支援、ペット同伴防災 障がい者…						ポンデリングメンバーとの情報共有の中で実施				
	b)中間支援組織のネットワーク のためのコアメンバー役割分担、 情報共有		災害中間支援組織及び、SDGs災害分科会において協議、 会議の整理を行う（参加者が重なることから一本化を提案）								
	c)連携先団体の拡大 名簿等の作成						ぼうさい国体参加者、参加団体より名簿の作成、連携団体への聞き取り				
②被災想定訓練の実施	a)災害支援の15分野が参加可能な ぼうさい国体の企画		ぼうさい国体の提案の精査と準備、 研修シナリオの作成								
	b)災害支援中間支援コアメンバーの ぼうさい国体分科会参加運営			防災国体分科会の災害分科会コアメンバーの役割分担							
	c)災害支援にかんする研修の実施と 情報収集と分析		災害福祉支援センター、とっとり県民活動活性化センター等の情報提供により団体連携の拡大、聞き取り等								
③地域社旗への認知拡大	a)ぼうさい国体の検証 今後の活動に向けた成果と課題の 明確化						情報共有会議、 アンケートの整理、成果や課題のとりまとめ 次年度事業への課題の共有				
	b)ぼうさい国体検証結果の公表								ぼうさい国体検証結果について、 HP,SNS等にて公表、周知		
④連絡調整基盤の整備	a)事業実施主体（協議会他）の役割の 明確化 当事業専任の人材確保		災害中間支援組織コアメンバーとの事業情報共有 人材確保								
	b)（災害中間組織）の専任チームの 明確化		災害中間支援組織コアメンバーとの事業情報共有 日本財団との連絡調整 11月上旬に、日本財団事業の中間報告書の作成、								次年度事業計画書の作成

「ぼうさいこくたいinとっとり」セッション

鳥取県内外で活動している
多様な団体が災害時にできる活動を考え、
各分野のつながりを作ること

A:福祉分野(こども、高齢者、
障がい者など)
B:地域づくり、居場所づくり
C:多文化共生(ジェンダー、
国籍など)
D:動物との共生支援他



分野別研修の実施

・避難の準備
・避難時の課題
・施設内での避難



多文化共生





子育て支援



人と動物の共生